

「ベンチャー」とは、いったい何だろう？

2010年6月14日

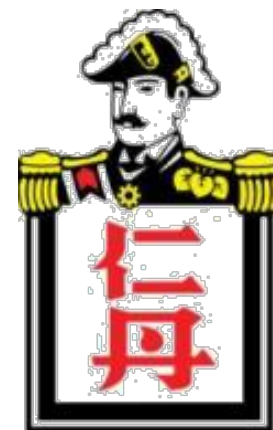
森下仁丹株式会社

代表取締役社長

駒村純一

1. 森下仁丹の概要

- 創業 : 1893年2月 (117年目)
- 資本金 : 35億円
- 株式市場 : 東証2部上場
- 従業員 : 231名
- 売上高 : 74億円(2010年3月期)
- 主な事業 : 医薬品、医薬部外品、医療用具ならびに
食品等の製造販売
(ビフィーナ、JINTAN 116、有機青汁等)
- 本社 : 大阪市中央区玉造
- 工場 : 大阪テクノセンター(枚方市)
滋賀工場



2. 「ベンチャー」の語源

Venire ラテン語の「来る」から派生



Venture (英語)

- ・ 結果の予測できない冒険的な企て
- ・ 投機、大胆にやってみること
- ・ 危険を冒しても思い切って行うこと



Adventure (英語) 冒険 ad(～へ) + venir(来る) = 起こる

Aventure (仏語) 冒険、特に恋の冒険

(avenir : 将来、前途)

3. ベンチャー企業とは

◆ベンチャーとは

新技術や高度な知識を軸に、大企業では実施しにくい創造的で革新的な経営を展開する中小企業を指す

◆ベンチャー企業の定義（明確な定義がまだない）

- ベンチャー投資機関から出資を受けている
- 機関団体などから指定ベンチャー認定を受けている
- 会社自体は設立したが、組織人材が未整備段階
- 既に独自の技術とビジネスモデルは確立し、店頭公開を計画

◆ベンチャービジネス

清成忠男・元法政大学総長が創られた和製英語



4. 「ベンチャー」に対する一般的な印象

- ◆ 良い技術や着眼点があるにも関わらず、結果が伴わないことが多い。大きな動きを作り出すことが難しい。
- ◆ 米国企業の受け売りのなところがある。
- ◆ 社長が必要以上に尖がっていたり、少々怪しい雰囲気がある。金儲け的な動きがあるか、金儲けに少々疎い。
- ◆ 政府が支援するインフラが少ない。また、支援するファンドの質、量ともに物足りない。
- ◆ ソニー、ホンダ、パナソニックも元々はベンチャー的な組織から出発し、世界に冠たる企業に成長した。



5. ファイザーのベンチャー企業活用法

【記事 2008年7月3日】

「ファイザーの旧中央研究所がベンチャー創薬企業として独立、2010－2011年のIPOを目指す」

ラクオリア創薬は、旧中央研究所から70人が参加。「疼痛」と「消化管疾患」の2領域での創薬研究。ファイザーから研究開発機器や研究開発プログラムの譲渡を受け、「毎年2つの開発候補化合物を創出可能。1・2の化合物で事業を始めるバイオベンチャーとは異なる存在」(社長談)。



6. ベンチャーの歴史

1970年代

- ・ 第一次ベンチャーブーム
- ・ 店頭市場が創設され、ベンチャー創業が活発化

1980年代 黎明期

- ・ 第二次ベンチャーブーム
- ・ ハイテクブームを背景に、ベンチャー創業が活発化
- ・ ITや医薬ベンチャーに大きな期待が掛けられた

1990年代

- ・ バブル崩壊に伴い、ベンチャー企業への環境が一変
- ・ 90年代後半にベンチャー・キャピタルが出現

2000年代

- ・ 01年にITバブル崩壊
- ・ 05年頃に大学発ベンチャーが増加



◆現実性を意識せず、理想論に飛び込んだまま、現在に至る？

7. スポンサーシップの日米比較

	日本	米国
実態	<ul style="list-style-type: none">◆国やVCの支援体制はまだ脆弱。◆スポーツ・文化分野に資金を投入しても、景気後退を理由に撤退する傾向がある。	<ul style="list-style-type: none">◆個人資産家や財団が、こまめに且つ大胆な投資支援を行っている。◆景気の影響を受けることは少ない。
姿勢	<ul style="list-style-type: none">◆短期的で、じっくりと育てていない。◆場当たりので戦略性に乏しい。	<ul style="list-style-type: none">◆長期的にじっくりと育てる。◆成長性、戦略性を重視する。
利益	<ul style="list-style-type: none">◆利益は個人に帰するものとする。◆直ぐに利益を生まないなら興味薄い。	<ul style="list-style-type: none">◆利益は社会に還元する思想がある。◆長期的に利益が出れば良い。

8. 基礎・応用技術の日米比較

	日本	米国
独創性	弱い	強い
基礎技術・理論	弱い	強い
応用技術・理論	強い 基礎は欧米から導入	強い 以前は日本が優位な分野もあったが、現在は優位性は薄れた
研究者	<ul style="list-style-type: none">国内で限られた予算で努力環境を求めて海外流出も ⇒ 残念なこと	<ul style="list-style-type: none">恵まれた研究環境長期的な視点豊富な資金援助

9. 日本政府の姿勢に違和感あり

事業仕分け

日本の基礎研究予算を削減！



大きな違和感と疑問あり

政府は、日本のベンチャー企業を本当に支援する気概があるのか？

10. 終わりに

現在の日本は、まだベンチャー企業を十分に育成する環境ではないが、悲観したり難しく考えなくてもよい。

【必要なこと】

- 価値観をひっくり返すような努力を継続すること。
- 理念的な支援を、政府・大学・投資家・企業・個人がしっかり考えていくこと。

